

1 自己評価及び外部評価結果(1階)

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2370401230 | | |
| 法人名 | 有限会社マザーズ | | |
| 事業所名 | グループホーム円頓寺東館(1階) | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市区那古野1-20-30 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年8月27日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年1月8日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370401230&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市区昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年9月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・商店街のお祭りやゴミ拾いに参加し、地域との交流が日常的に行われていること。 ・入居者さん1人1人のペースで生活をして頂いていること。 ・フロアの掃除や家事を入居者さんが行えるように支援したり、外出できる機会をたくさん設けていること。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>サービスの質の向上を目指し、法人全体で体制強化を図り、人材の適材適所への配置・処遇改善等で、今年度は目ざましい前進が感じられた。具体的取り組みとしては、利用者毎の介護計画の支援内容周知・実践・記録の徹底、研修・勉強会での職員の底上げである。特に、センター方式を活用して利用者の観察を行い、全職員が一部ずつ、ひとりの利用者の「利用者像」を管理者に提出する取り組みは見事である。すべての利用者の「利用者像」を全職員が一部ずつ提出できるということは、必ず利用者と職員のコミュニケーションが発生するということになる。この取り組みの効果は上々で、職員の意識改革はもちろんのこと、利用者支援に対する向上心は熱心な研修参加へもつなぐことができている。今後も継続的な取り組みとさらなる工夫に期待が持てる。</p> |
|---|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 今年度「事例検討会」を行っており、現場スタッフが理念と法令の視点でケアを振り返り、そこで出た疑問や気づきに対して役員会議の場で検証現場へフィードバックを行っている。 | 法人理念を玄関に掲示し、来訪者に対しても理念を周知している。また、法人全体で理念達成に取り組む、全職員周知・共有、具体的支援内容・方法の検討等、実践に向けた積極的な取り組みがある。 | 法人理念を基本とする運営体制・精神の共有に何ら問題はない。今後は、法人幹部から職員にフィードバックした内容に対し、周知度の検証を繰り返し、さらに充実した理念への帰結が期待される。 |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホームが商店街にあるという立地を最大限に活かし、毎月の縁日やイベント、お祭りへのみたらし団子出店や参加、また日常ではゴミ拾いをほぼ毎日行い、常に交流を行っている。 | ホームの立地を活かした取り組み・活動は継続されており、地域の一員としての生活を確立している。毎月の縁日のみたらし団子出店は、地域から依頼が来るほどになっている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 上記のように日常的にありのままの姿を見て理解していただくことに加え、運営推進会議や町内の集まり、また訪問や電話での問い合わせに対してその都度対応している。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議における商店街や近隣の方からの意見を大切に、すぐ実行・そしてホーム全体で継続して取り組むことができるように心がけている。 | 地域と協議する場として、最大限の活用がある。ホーム利用者が地域の中で暮らし続ける手立てを地域と共に考え、ホームの運営に反映させている。 | 今年度からの軽減要件とも併せ、2カ月に一度の会議開催、行政担当のメンバー登録等、制度に合わせた取り組み・働きかけが望まれる。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 各ホームでというよりは、法人を通して日頃から担当者と連絡・相談を行っている。 | オーナー・施設長・ホーム長がこの任に当たり、法人全体として市との連携を行っている。運営に関する相談・連絡を通じ、相互で情報交換・収集を図り、良好な関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 西区GHコンソーシアム内で研修があり、参加または研修報告書の回覧を行い周知をしている。また、防犯上夜間帯のみ玄関に施錠をしているが昼間は入居者さんがどなたでも自由に出入りしている。 | 身体拘束排除に対するホームの意識は高く、外部研修参加・内部研修充実等、職員周知にも力を注いでいる。施錠をはじめとする日常生活の中の身体拘束について、正しい理解の上での支援実践に努めている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 西区GHコンソーシアム内で研修があり、参加または研修報告書の回覧を行い周知をしている。また、日常的なスタッフとのコミュニケーションやユニット会議などを利用して皆で未然に防ぐよう心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在すでに利用されている方については、何事も相談しながら進めるようにしているが、その他の方の必要性や活用方法までを話し合うことまではできていない。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 随時理解しやすい様な契約書の見直しを行ったり、契約時には一通り書面に沿って1つ1つ説明をし、ご理解いただけるように努力している。改定の際にも説明を行い、理解を頂いた上でやっている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者が平日中心に日勤勤務、また日曜日にも出勤したり、フロアへこまめに顔を出す事で入居者さんやご家族からの意見やお話を伺える機会を確保している。 | 利用者意見に関しては、良好な関係の中での聴き取りに努めている。家族意見に関しても、来訪時・電話連絡時等、直接話をする機会に、意見の聴き取りを行っている。聴き取った意見は、職員周知・検討の上、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各フロアのユニット会議や日常の会話から申し出や相談があった場合には、役員会議または管理者会議、直接法人へ報告するようにしている。代表者は管理者または各会議を通してフィードバックを行っている。 | 各ユニット会議・申し送りでの意見聴き取り、個人毎の申し出等、職員の意見聴取の機会・場を確保している。聴き取った意見に関しては、最終的に職員へのフィードバックを図り、職員のやりがいへとつなげている。 | 職員ヒアリングにおいても、自身の責任・やりがいについて意識の高い意見があることから、今後も、継続した取り組み、更なる充実が期待される。 |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者にも各館の勤務表を配布しており、勤務状況を把握できるようにしている。代表者は日常的に各館へ顔を出し、直接話や意見を聞いたり、声をかけたりしている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は各館の管理者や役員会議においてスタッフ一人一人の実際を把握するようにしている。また、管理者と相談しながら、各スタッフへの適切な研修の提案などを行っている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設長とホーム長が西区GHコンソーシアムや名古屋市認知症グループホーム協議会の役員として活動しており、ネットワーク作りや研修などGHの質の向上を目指して企画・運営に携わっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所の際に、以前の事業所とご家族へセンター方式の記入を出来る範囲でお願いし、入所前には現場スタッフへ情報提供している。それらの情報とご本人の言葉や行動から思いを読み取るよう努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所の際にご家族にもセンター方式の記入を出来る範囲でお願いし、また契約時などに直接お話しをお伺いする事によって、ご家族としての希望や思いをするよう努めている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の際に記入していただいたセンター方式を基に、さらに常々ご本人やご家族からの声に耳を傾け、ユニット会議等で本当にご本人やご家族にとって必要な支援を見極め、共有し、迅速に対応している。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 管理者、スタッフ一同が常々「本人が生活している」ということを尊重し、過剰な支援をしたり、自発的な言動を阻害しないようにしている。また、法人全体で「介護」という言葉から「支援」という表現に統一をしている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホームからは毎月の手紙(ご本人が中心に書く)を通して、関係を絶やさないように努力している。また、ご本人に関する事についてその都度ご家族にも意向を確認し、相談しながら支援している。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 手紙を友人にも書いたり、定期的に友人が訪ねてきて一緒に外食をしたりしている。また以前は入居者さんが友人宅まで通ったり宿泊していたが、骨折し困難になった現在は、友人がホームへ訪ねてきてくれる。 | 友人との外出、馴染みの喫茶店への外出等、地域からの利用者に対しては、希望がある限り、最大限の支援を行っている。また、利用者への来客に対しても同様に、本人の望む関係継続を支援している。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 基本的には入居者さん同士の関係はご本人同士で築くもの、と認識している。愚痴を言い合ったり、悪口があっても、スタッフは直接的に静止したりせず、関心をずらしたりするなど間接的に関わるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病状の悪化が原因で病院へ退所された方が多く、現在は亡くなられている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式をスタッフみんなで取組み、その人の思いを把握するように努めている。 | センター方式を活用し、ユニット毎に、職員全員が利用者毎の思いの把握を実践している。ひとりの職員では聴き取れなかった思いを、他の職員が聴き取れるケースもあり、取組みの成果を上げている。 | 利用者と職員をつなぐコミュニケーションのツールとしても活用できることから、今後の成果にも期待が持てる。コミュニケーションの苦手な職員に対しても、テーマを決めた聴き取り等の、更なる工夫が期待される。 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式に加え、その都度家族の方や知り合いの方などから情報を頂き、習慣・なじみの生活に近づける努力を行っている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | モニタリング、定期的なセンター方式取組みなどを通して常にご本人の現状をスタッフ全員で把握できるように努めている。体調を崩した方はチェックする項目を決めて全員で観察・早期発見できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族にも意見を聞き、ご本人の気持ちとのバランスをとっている。その上でケアカンファレンスを行い、スタッフ全員で協議し、ケアプランの作成・見直しを行っている。 | 6カ月毎のアセスメント、毎月のモニタリング実施で利用者の状況・状態を把握している。利用者希望・家族意向、職員意見を併せた検討を行い、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 「介護記録」の職員研修へ全員参加し、記録の書き方やルールが統一されたことによりスタッフ間で情報がとても共有しやすくなっている。ケアプランの見直しにも同じ視点で話し合えるので役立っている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 提携病院以外の通院や思い立った時に外出したり、昔なじみの喫茶店に行きたいなどの外出など、ご本人やご家族の希望に沿って管理者含めスタッフが柔軟に対応・支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 日常的に買い物や散歩、掃除など地域へ積極的にに関わり、ご本人と地域が自然に関われるよう支援している。また毎月の縁日やイベントにも積極的に参加し、関わる機会を多く確保している。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 常にご本人とご家族の希望を第一に、事業所としては生活を、24時間対応可能な往診クリニック・主治医には医療面で、共にご本人を支えていくために連携・相談・提案を行っている。 | ホーム提携医の1か月に2回の往診、緊急・急変時の24時間対応を確保し、利用者・家族の安心につなげている。眼科・歯科等、利用者希望の受診先へは、職員付添いの支援を行っている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤勤務である看護師に対し、管理者が入居者さん全員の近況を文書で申し送っている。また、スタッフも日ごろから気づきや特変事項を記録し、看護師は出勤時に目をとおして把握・連携できるようにしている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院の際には、家族や病院担当者と連絡を取り合い、ご本人をどう支えていくのかをその都度協議して決めている。また、ご本人の情報提供・ホームの受け入れ体制づくりを迅速に行い、早期退院に努めている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時の聞き取りや定期的なセンター方式などを通してご家族やご本人の希望を把握し、指針としてホームとしての対応を定めているので、その都度ご本人・ご家族・医師と相談しながら進めるようにしている。 | 利用者・家族の希望に、ホームとしてできる限りの対応をすることを方針としている。また、本人・家族の希望ばかりではなく、他の利用者への影響、支援する職員の思いも視野に入れた、適切な対応を方針の基本としている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変に備え、ユニット会議などで事前に情報を共有をしておいたり、往診やその都度電話連絡などで「こういった場合はどうしたらよいか」を医師や看護師から指示をもらって対応している。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 半年に一度、入居者の避難誘導を含めた防災訓練を行っている。想定を夜間体制にして、1人のスタッフ(訓練の都度交代)で行うようにしたり、階段の昇り降りもやっている。地域との協力体制はこれからである。 | 年に2回の防災避難訓練を実施し、利用者・職員に意識付けを行っている。夜間想定訓練も実施し、全員退避までの時間を計る等、防災に対する高い意識がうかがえる。 | 地域交流も進んだ現在、運営推進会議等の議題として地域と検討する時期が到来したものと思われる。非難訓練を会議メンバーに見学していただき、今後の対策を協議するののも一つの方法として提案したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 食べこぼしの支援やトイレなどの声かけの際に「風邪ひくといけないので」などとご本人の誇りを傷つけないようにしたり、ご本人にだけ聞こえるように耳元でさりげなく話をしたりしている。 | 職員は利用者一人ひとりの特性・性格をよく理解・把握し、適切な対応に努めている。訪問調査日の視察でも、排尿を訴える利用者に対し、他の利用者の関わりを意識した、さりげない言葉での対応があり、日常の適切な支援がうかがえた。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で献立や散歩の行き先の希望を聞いたり、おやつ時間もスタッフが決めつけず「コーヒーお茶とか、何にしますか」と1人1人その都度必ず自己選択のある声かけ、そして自己決定していただいている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や就寝はその方のペース、タイミングに合わせて支援を行っている。食事もゆっくり食べる方には急かさずゆっくり食べていただき終わり次第服薬支援をしたり、片付けもその方のペースで行っていただいている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ひげそりを行うが十分でなく本人が気にされるときはスタッフが残った部分を支援したり、入浴前後でネックレスや指輪の装着を支援したり、髪の毛の長い方には毎朝ご自分で整髪できるように鏡までご案内している。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は入居者さんの希望を聞き取って、足りない食材は一緒に買いに行き、調理(野菜を切る、盛りつけ)や配膳、お盆ふき、茶碗拭きができる方にはお願いしている。誕生日にはその方の好きなものを外食している。 | 利用者の中には、食事準備・配膳・片付け等を自身の役割としている方もおられ、てきぱきと仕事をこなす明るい雰囲気があった。食べたい物を聞き取り、買い物を共に行い、生活の中の食事時間が利用者の楽しみとなるように支援・工夫をしている。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日常から好きな飲み物で水分量を確保したり、食事・水分量が特変ある場合には記録をとり観察している。また、献立を3ヶ月に1度、栄養士によるカロリー計算・栄養バランスのチェックなどを行っている。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | その方に合わせて口腔ケアの声かけや支援を行い、口腔内トラブルや誤嚥の予防に努めると共に、口腔状態を観察し、記録して他のスタッフとの共有ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の失敗と安眠を両立するために夜用のパットを使用し、昼は通気性や本人の使いやすさを重視して使い分けている。また、トイレの場所に不安がある方には声かけを行えばご自分で行くことができている。 | 自立排泄を基本として、日中は利用者毎に合わせた支援を実践している。声かけ・介助方法等を職員間で共有し、利用者が戸惑わない支援実践がある。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に野菜を積極的に取り入れたり、バランスを考えている。また、ホーム内外で散歩やテレビの体操、移動など、日常生活上の活動の中で運動ができるように心がけている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間の希望に対応し、希望が重なった場合にも気持ちよく待っていただけるように心がけている。また、声かけも本人が気分良く入れるように(テレビのCMの間や異性スタッフが声をかける)心がけている。 | 利用者の希望を重視するとともに、週に2回以上の入浴をしていただけるように支援している。お風呂好きの利用者は、毎日の入浴を楽しみにしている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼間に居間で転寝をされている場合は「少し体のばしませんか」と居室へお誘いしたり、夜間も居室の室温をご本人の希望に合わせてクーラーや自然の風で調整している。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 提携薬局による居宅療養管理指導を取り入れている。薬についての疑問や飲み忘れなどの対応などその都度(時間外対応も可能)薬剤師に確認し、支援・症状の変化の観察をしている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 暑い日には近くのお茶屋さんへアイスクリームを、誕生日には好きなものを食べに行ったり、好きな果飴を一緒に買いにいったり、ご自分でビールを買って毎日他の入居者さんへも分けて晩酌している方もみえる。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 商店街の掃除や買い物、散歩、回覧板をまわす、郵便局へ行くなどの日常的な外出を機会あるごとに誘っている。その他にも、つたい歩きの方が「外へ行く」と一人で外出された時も、スタッフが車椅子をもって後を追いかけ、付き添っている。 | 自由外出がホームの特性ともなっており、利用者が自身の日課で外出を行っている。希望表出がない利用者に対しても、職員が買い物・外出等の誘いの声かけを行い、さりげない配慮を行っている。アーケード商店街の利点で、全天候で外出が可能であり、自由でのびのびとした生活の支援実践がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 3分の1の方がご自分でこづかいを所持しており、好きな物を購入されたり、自己管理されている。また、自分では「お金がない」と認識している方にはスタッフから提案をして買い物へ行っている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を所持し知人に電話をしている方も見える。その他にも、家族・知人に毎月写真入の便箋を用意し、ご本人が中心となって手紙を書いている。また希望があれば、その都度電話の操作を支援している。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 歌が好きで歌を口ずさむと「テレビが聞こえん！」と怒る方がみえたりするので、場所を変える提案をしてみたり、居間のクーラーが寒い方には1枚上着やひざかけを提案したりして、1人1人にとって居心地の良い空間となるように心がけている。 | 共有空間には利用者が集い、互いに世話を焼きあう光景があり、共同生活の場としての環境にも何ら問題は感じられない。4階建ての建物で、1階と3階を各ユニットの共有空間としているが、どちらも生活感あふれる空間となっており、利用者の主張が感じられた。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファを活用しゆっくり過ごせる場所を作ったり、テレビの見たい方には見やすい場所へ座って頂いている。他にも玄関のベンチやホーム前の花スペースを利用し、その方の過ごしやすい居場所の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所の際には、なじみの古い家具を持ってきていただくようお願いしている。その都度ご本人や家族に相談しながら居心地の良い空間作りを行っている。 | ホーム居住年数が長くなるにつれ、利用者の居室は、まさに利用者の「我が家」となっている。現在は持ち物の少ない利用者も、時間の経過とともに馴染みの物品が持ち込まれていくであろう事が想像できる。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | センター方式を使用し「できること」「わかること」を把握している。スタッフは過剰支援ではなく、その力を活かせるような支援をしている。例えば、歩きやすい履物、トイレの案内表示、引き出しに内容表示をしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果(4階)

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2370401230 | | |
| 法人名 | 有限会社マザーズ | | |
| 事業所名 | グループホーム円頓寺東館(4階) | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市区西那古野1-20-30 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年8月21日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年1月8日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370401230&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市区昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年9月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・商店街のお祭りやゴミ拾いに参加し、地域との交流が日常的に行われていること。 ・入居者さん1人1人のペースで生活をして頂いていること。 ・フロアの掃除や家事を入居者さんが行えるように支援したり、外出できる機会をたくさん設けていること。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 今年度「事例検討会」を行っており、現場スタッフが理念と法令の視点でケアを振り返り、そこで出た疑問や気づきに対して役員会議の場で検証 現場へフィードバックを行っている。 | | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホームが商店街にあるという立地を最大限に活かし、毎月の縁日やイベント、お祭りへのみたらし団子出店や参加、また日常ではゴミ拾いをほぼ毎日行い、常に交流を行っている。 | | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 上記のように日常的にありのままの姿を見て理解していただくことに加え、運営推進会議や町内の集まり、また訪問や電話での問い合わせに対してその都度対応している。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議における商店街や近隣の方からの意見を大切に、すぐ実行・そしてホーム全体で継続して取り組むことができるように心がけている。 | | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 各ホームでというよりは、法人を通して日頃から担当者と連絡・相談を行っている。 | | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 西区GHコンソーシアム内で研修があり、参加または研修報告書の回覧を行い周知をしている。また、防犯上夜間帯のみ玄関に施錠をしているが昼間は入居さんがどなたでも自由に出入りしている。 | | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 西区GHコンソーシアム内で研修があり、参加または研修報告書の回覧を行い周知をしている。また、日常的なスタッフとのコミュニケーションやユニット会議などを利用して皆で未然に防ぐよう心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在すでに利用されている方については、何事も相談しながら進めるようにしているが、その他の方の必要性や活用方法までを話し合うことまではできていない。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 随時理解しやすい様な契約書の見直しを行ったり、契約時には一通り書面に沿って1つ1つ説明をし、ご理解いただけるように努力している。改定の際にも説明を行い、理解を頂いた上でやっている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者が平日中心に日勤勤務、また日曜日にも出勤したり、フロアへこまめに顔を出す事で入居者さんやご家族からの意見やお話を伺える機会を確保している。 | | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各フロアのユニット会議や日常の会話から申し出や相談があった場合には、役員会議または管理者会議、直接法人へ報告するようにしている。代表者は管理者または各会議を通してフィードバックを行っている。 | | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者にも各館の勤務表を配布しており、勤務状況を把握できるようにしている。代表者は日常的に各館へ顔を出し、直接話や意見を聞いたり、声をかけたりしている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は各館の管理者や役員会議においてスタッフ一人一人の実際を把握するようにしている。また、管理者と相談しながら、各スタッフへの適切な研修の提案などを行っている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設長とホーム長が西区GHコンソーシアムや名古屋市認知症グループホーム協議会の役員として活動しており、ネットワーク作りや研修などGHの質の向上を目指して企画・運営に携わっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所の際に、以前の事業所とご家族へセンター方式の記入を出来る範囲でお願いし、入所前には現場スタッフへ情報提供している。それらの情報とご本人の言葉や行動から思いを読み取るよう努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所の際にご家族にもセンター方式の記入を出来る範囲でお願いし、また契約時などに直接お話しをお伺いする事によって、ご家族としての希望や思いをするよう努めている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の際に記入していただいたセンター方式を基に、さらに常々ご本人やご家族からの声に耳を傾け、ユニット会議等で本当にご本人やご家族にとって必要な支援を見極め、共有し、迅速に対応している。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 管理者、スタッフ一同が常々「本人が生活している」ということを尊重し、過剰な支援をしたり、自発的な言動を阻害しないようにしている。また、法人全体で「介護」という言葉から「支援」という表現に統一をしている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホームからは毎月の手紙(ご本人が中心に書く)を通して、関係を絶やさないように努力している。また、ご本人に関することについてその都度ご家族にも意向を確認し、相談しながら支援している。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 買い物や掃除など積極的に商店街を歩くことにより、なじみの人から声を掛けてもらえる機会を多く確保している。また、「さん元気？」などスタッフを通したり、縁日など直接ご本人と話せる機会も確保している。 | | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 基本的には入居者さん同士の関係はご本人同士で築くもの、と認識している。愚痴を言い合ったり、悪口があっても、スタッフは直接的に静止したりせず、関心をずらしたりするなど間接的に関わるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病状の悪化が原因で病院へ退所された方が多く、現在は亡くなられている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式をスタッフみんなで取組み、その人の思いを把握するように努めている。 | | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式に加え、その都度家族の方や知り合いの方などから情報を頂き、習慣・なじみの生活に近づける努力を行っている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | モニタリング、定期的なセンター方式取組みなどを通して常にご本人の現状をスタッフ全員で把握できるように努めている。体調を崩した方はチェックする項目を決めて全員で観察・早期発見できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族にも意見を聞き、ご本人の気持ちとのバランスをとっている。その上でケアカンファレンスを行い、スタッフ全員で協議し、ケアプランの作成・見直しを行っている。 | | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 「介護記録」の職員研修へ全員参加し、記録の書き方やルールが統一されたことによりスタッフ間で情報がとても共有しやすくなっている。ケアプランの見直しにも同じ視点で話し合えるので役立っている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 提携医院以外の通院やデパートや御園座などの外出など、ご本人やご家族の希望に沿って管理者含めスタッフが柔軟に対応・支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎日常じみの喫茶店に通う入居者さんや声をかけあう昔からの知人等、ご本人と地域が自然な状態で関わられるよう支援している。また毎月の縁日やイベントにも積極的に参加し、関わる機会を多く確保している。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 常にご本人とご家族の希望を第一に、事業所としては生活を、24時間対応可能な往診クリニック・主治医には医療面で、共にご本人を支えていくために連携・相談・提案を行っている。 | | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤勤務である看護師に対し、管理者が入居者さん全員の近況を文書で申し送っている。また、スタッフも日ごろから気づきや特変事項を記録し、看護師は出勤時に目をとおして把握・連携できるようにしている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院の際には、家族や病院担当者と連絡を取り合い、ご本人をどう支えていくのかをその都度協議して決めている。また、ご本人の情報提供・ホームの受け入れ体制づくりを迅速に行い、早期退院に努めている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時の聞き取りや定期的なセンター方式などを通してご家族やご本人の希望を把握し、指針としてホームとしての対応を定めているので、その都度ご本人・ご家族・医師と相談しながら進めるようにしている。 | | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変に備え、ユニット会議などで事前に情報を共有をしておいたり、往診やその都度電話連絡などで「こういった場合はどうしたらよいか」を医師や看護師から指示をもらって対応している。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 半年に一度、入居者の避難誘導を含めた防災訓練を行っている。想定を夜間体制にして、1人のスタッフ(訓練の都度交代)で行うようにしたり、階段の昇り降りも行っている。地域との協力体制はこれからである。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格や習慣に合わせた言葉掛けをしている。例えば、丁寧語はよそよそしくて嫌だ、という方には失礼のない普段の言葉で対応し、衣類や入浴時間など自己決定をして頂いている。 | | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 思いを表現しやすいような環境(スタッフの表情や聴く姿勢)を作ったり、密なコミュニケーションの中でご本人の思いに沿った提案・助言を行うことにより自己決定を支援している。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間や朝食時間、入浴時間を決めずに、ご本人のペースで生活して頂けるようにスタッフが声かけや調整を行い、関わっている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | スタッフがご本人の自己選択を支援する事により、衣類を決めたり、女性の入居者さん同士で化粧や衣類を褒めあったりしている。またご本人の希望通り、商店街の床屋での散髪も継続的に実現できている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 日常的に献立決めや買い物、調理、配膳などを入居者さんと共に行っている。また季節によって梅干を漬けたり、梅ジュースを作ったりもしている。 | | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 支援が必要な入居者さんには、センター方式内のシートやカレンダーを活用し、水分量を把握・管理している。また、献立を基に3ヶ月に1度、栄養士によるカロリー計算・栄養バランスのチェックなどを行っている。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | その方に合わせて口腔ケアの声かけや支援を行い、口腔内トラブルや誤嚥の予防に努めると共に、口腔状態を観察し、記録して他のスタッフとの共有ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の訴えない方にはその方のリズムに合わせた定時の誘導を行いトイレでの排泄に努めると共に、1人1人の希望と有する能力に応じた布パンツ、リハビリパンツ、パット類を使用している。 | | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | その方の便秘の原因と思われることを把握し、運動や水分量などを支援している。中には、ご自分で納豆や黒飴が良いと信じている方も見えるので、その思いに沿って支援を行っている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴のタイミングや湯温はその方の希望に合わせて支援している。他には歌を歌いながら入浴されるのが好きな方、1番風呂と信じて入って見える方も何人か見えるので、その方の思いにあわせた支援をしている。 | | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中でもその日の体調に合わせて居室やソファで休息をとっていただいている。また室温が快適であるようにエアコンの調整を行ったり、夜間の巡視の際にも静かに行うように心がけている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 提携薬局による居宅療養管理指導を取り入れられている。薬についての疑問や飲み忘れなどの対応などその都度(時間外対応も可能)薬剤師に確認し、支援・症状の変化の観察をしている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1人1人の得意なことを把握し、調理や外出時の道案内、塗り絵、野菜の世話などが行えるように支援している。またタバコやビールなどの嗜好品も継続して楽しんで頂ける様に支援している。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 商店街の掃除や買い物、散歩、回覧板をまわす、郵便局へ行くなどの日常的な外出を機会あるごとに、毎日頻回に行っている。その他にも、その方の思いや希望に沿った外出にその都度対応できるように家族や地域の人に協力・情報提供して頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 半数の方がご自分でこづかいを所持しており、好きな物を購入されたり、自己管理されている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を所持して、知人などに電話をしたり、外出の約束を自ら行っている方も見える。その他にも、家族・知人のみえる方には毎月写真入の便箋を用意し、ご本人が中心となって手紙を書いて出している。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 間違っ認識し口に入れてしまう方がみえるので、誤解を招くようなものは避けながら、生活感や季節感(ベランダでの野菜、花づくり)を取り入れたり、共有の空間が心地の良い場所であるように入居者さんの視点で支援をしている。 | | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファを活用しゆっくり過ごせる場所を作ったり、テレビの見たい方には見やすい場所へ座って頂いている。他にもベランダや玄関のベンチ等も利用し、その方の過ごしやすい居場所の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所の際には、なじみの古い家具を持ってきていただくようお願いしている。その都度ご本人や家族相談しながら居心地の良い空間作りを行っている。 | | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | センター方式を使用し、「できること」「わかること」を把握している。スタッフは過剰支援ではなく、その力を活かせるような支援をしている。例えば、歩きやすい履物、トイレの案内表示、引き出しに内容表示をしている。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--------------------------------------|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 23 | コミュニケーションの苦手な職員に対して、テーマを決めた聴き取り等の更なる工夫が期待される。 | 各スタッフが今以上に入居者の方達とコミュニケーションをとれるようになる。 | センター方式(C-1-2)のテーマを、その都度その方にとって必要なものに変更してみる。 | 12ヶ月 |
| 2 | 11 | 職員ヒアリングにおいて継続した取り組み、更なる充実が期待される。 | ユニットリーダーが現場スタッフの想いを汲み取る。 | ユニット会議や申し送りだけでなく、現場での様子をみたり、声をかけるなどして各スタッフの想いを把握していく。 | 12ヶ月 |
| 3 | 1 | 法人理念の周知度の検証を繰り返し、さらに充実した理念への帰結が期待される。 | 現場と理念との違いをユニットリーダーが素早く感じ取る。 | 現場で理念とのずれが生じた場合、ユニット会議を利用し、再度理念をフィードバックして共有していくことに努める。 | 12ヶ月 |
| 4 | 4 | 今年度からの軽減要件とも併せ、2ヶ月に一度の地域運営推進会議開催、行政担当のメンバー登録等、制度に合わせた取り組み、働きかけが望まれる。 | メンバーの参加を増やす。 | 運営推進会議の開催日を決める。 | 12ヶ月 |
| 5 | 35 | 避難訓練を地域運営推進会議メンバーに見学していただき、今後の対策を協議する。 | 訓練だけでなく、地域の方がホームを訪れてくださる機会を増やす。 | 地域運営推進会議の時に、訓練参加やホームへ足を運ぶ回数が増えるような話をしていく。 | 12ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。